

みね岡しんご 後援会会報

令和元年度 no. 2

ご挨拶

6月定例会では、地区まちづくり協議会と東京女子医大について一般質問をしました。今後の少子高齢化が進む中で大変重要な課題です。現在の市長のスタンスには全く納得できず、こちらの案も示しながら強く問いました。一足飛びにうまくはいきませんが、目先の負担とらわれず、未来を見据えた政策を推進するよう追及して参ります。



6月定例会における一般質問

地区まちづくり協議会について

Q. 現在の地区組織の大きな課題の1つとして乱立する組織の存在がある。地域任せでなく、市が目指すべき組織の将来形を明確に示し、全地区が将来形に向けて臨むことができるよう支援する考えがないか伺う。

A. 市議会、地域、行政であるべき姿を共有するよう努めていく。

⇒ 回答を受けての嶺岡の考え

特に掛川区域では、組織の乱立により地区組織が統一されず、各まち協も苦労しています。将来形を示さずに地域任せでは、どうしていけば良いかわからないというのが現状です。市としては将来形を示さないという回答でしたので、再質問で『**地区自治組織の在り方検討会**』の設置を提案し、設置へ向けて前向きな回答をもらいました。

東京女子医大との連携強化を

Q. 東京女子医大掛川キャンパス（看護学部移転に伴い来年度より名称変更）に、市役所や地区機能の一部を移転し、東京女子医大との連携強化を図る考えがないか伺う。

A. 保健、医療、福祉や教育など、東京女子医大の高度教育機関としての特性と連携が可能な、様々な活用方法の検討をしていく。

⇒ 回答を受けての嶺岡の考え

来年度より大学院生が学ぶ場になりますが、その分野を学ぶ学生は全学年合わせても数名、基本は東京での研究であり、掛川にどのくらい来るかは未知数です。**今後の活用は東京女子医大任せでなく、現時点から掛川市が歩み寄り目先の負担にとらわれず共に考えていくことが、**将来の掛川市の地域医療にとって大変重要だと考えます。

掛川市の人口の現状

表1 掛川市の17歳までの年齢別人口

年齢	中学校区の1才毎の人数											城東地区小学校		
	学年	栄中	東中	北中	西中	桜中	原中	大浜	城東	大須	合計	土方	佐東	中小
0	-	29	229	155	236	107	23	66	41	42	928	17	14	10
1	-	22	227	168	210	137	29	69	55	67	984	20	22	13
2	-	28	252	189	213	123	34	79	55	60	1,033	25	12	18
3	年少	33	234	175	206	138	46	81	68	74	1,055	28	29	11
4	年中	40	201	171	204	158	43	97	72	68	1,054	28	22	22
5	年長	38	243	191	212	155	57	79	81	80	1,136	29	35	17
6	小1	35	220	196	216	151	49	100	84	95	1,146	32	28	24
7	小2	45	211	194	192	151	48	104	77	88	1,110	30	24	23
8	小3	39	243	195	205	153	40	100	67	82	1,124	29	20	18
9	小4	38	228	174	216	134	44	102	69	110	1,115	28	23	18
10	小5	45	198	208	202	162	56	114	73	106	1,164	18	33	22
11	小6	44	232	179	247	140	43	83	80	97	1,145	31	29	20
12	中1	30	179	172	230	155	49	119	73	91	1,098	24	32	17
13	中2	29	198	168	205	157	48	91	67	109	1,072	20	31	16
14	中3	32	187	188	236	130	35	117	67	98	1,090	18	31	18
15	高1	37	194	195	225	169	38	117	90	107	1,172	31	37	22
16	高2	38	179	171	225	148	41	86	64	109	1,061	26	24	14
17	高3	41	226	159	214	160	46	113	81	100	1,140	43	26	12

※平成31年3月31日現在の年齢毎の中学校区別人口です。中学校、小学校の生徒数ではありません。市役所から入手したデータを嶺岡が独自にまとめたデータであり参考値です。

表2 掛川市の5歳毎の人口

年齢人口	人口合計	年齢人口	人口合計	年齢人口	人口合計	年齢人口	人口合計
0～4	5,054	30～34	7,136	60～64	7,699	90～94	1,795
5～9	5,631	35～39	7,805	65～69	8,896	95～99	508
10～14	5,569	40～44	8,401	70～74	7,145	100～104	51
15～19	5,540	45～49	8,274	75～79	5,503	105～109	2
20～24	5,361	50～54	7,003	80～84	4,410		
25～29	5,746	55～59	7,247	85～89	3,202	合計	117,978

※平成31年3月31日現在

掛川市の人口統計を踏まえた将来ビジョンを

上表より、4歳以下の人口が急激に減っていることがわかりますが、これは、**20代から30代の人口が40代の人口に比べて大きく減少している**ことが主な要因だと考えられます。今後、この傾向はさらに進み、出生率を大幅改善しても、すぐには少子化を止めることはできません。少子化を最重要課題として捉え、少しでも人口を増やす取組も大変重要ですが、この現実をしっかりと受け入れ、将来に向けた施策も大変重要となります。

掛川市は市域も広いこともあり、中学校ごとの人数格差が大変顕著です。**20年後には、半数近くの中学校が1学年1クラスになる可能性**もあります。現在掛川市は、中学校区ごとの都市計画、学園化構想を基本としています。今後、自動運転車、AIの開発がさらに進み社会は大きく変わることが予想されます。将来を見据え、**現行の中学校区ごとのまちづくりの見直しやコンパクトシティの積極的な推進**が必要と考えています。